

レゾリュート・ドラゴン 2026・

バリエントシールド 2026

拡大する軍事演習に反対の声を！

山本みはぎ

6月20日から30日まで、南西諸島や九州全域で陸上自衛隊西部方面隊と第3海兵隊機動展開部隊のほか陸海空軍の9600名が参加し、陸上自衛隊の領域横断作戦（※1）と米海兵隊の機動展開前進基地作戦（※2）を踏まえて、指揮系統や作戦運用を一体化させた実戦的な日米の相互連携を図る「レゾリュート・ドラゴン 2026」が行われた。また、同時期にアメリカ主導の多国間演習「バリエントシールド 2026」が米海軍のジョージ・ワシントン空母打撃軍など航空機 200 機以上と水上艦艇 20 隻が参加し、日本・オーストラリア、カナダ、ニュージーランドが参加して行われた。日本は、2024 年から参加し、自衛隊員 4100 人、車両 150 台、航空機 60 機が参加し、日本列島全域と空域・海域で演習行った。

レゾリュート・ドラゴン 2026 では、熊本の健軍駐屯地に日米の共同調整所を開設し、初めて25式地对艦誘導弾と 25 式高速滑空弾を配備した部隊の要員が指揮機関訓練に参加した。

沖縄のキャンプ・ハンセンでも 陸自12式地对艦誘導弾、米海兵隊のネメシス（無人地对艦ミサイル搭載車両）・マデス（無人機を含む航空機による低高度の攻撃に対して電磁攻撃と実弾攻撃が可能な防空システム、2025 年 7 月から配備）を展開し、長射程ミサイルを統括する第二特科団（湯布院駐屯地）、米海兵隊は第三海兵機動展開部隊が参加した。中国本土も射程に入れた、日米一体の「敵基地攻撃」戦争準備そのものである。

自衛隊の V22 オスプレイが、宮古空港の初飛来し、患者や物資輸送の訓練が行われた。アメリカ海兵隊の CH53・大型輸送ヘリも、石垣空港と宮古島の航空自衛隊分屯基地で訓練を行っている。

陸海空自の共同部隊「自衛隊海上輸送群」（母港は広島県呉市）の輸送艦「にほんばれ」と「ようこう」が、大分や鹿児島県の民間港からミサイル装備などを奄美大島、徳之島、沖縄島・宮古島に輸送した。

バリエントシールド 2026 では、鹿児島の鹿屋航空基地には、米陸軍の「タイフーン」（射程 1600km のトマホーク運用可能な対艦・対地攻撃用システム）と高機動ロケット砲システムハイマースが配備された。タイフーンは、9月行われる日米合同軍事演習オリエ

ントシールドの終了後10月まで同基地におかれ、その後在日米軍基地（所在地不明）に「一時保管」とされている。タイフーンは、2025 年に行われた米比合同演習「バリカタン」でネメシスとともに使用され、その後フィリピンに常駐された経緯がある。日本でも、昨年の日米合同演習で岩国基地に配備され、訓練後 50 日以上置かれた。日本で常設配備をされれば、フィリピンとともに対中国包囲網の攻撃拠点として機能することになる。トマホークは核弾頭搭載可能なミサイルである。この間、小泉防衛相が核兵器をめぐる議論の必要性を何度か言及しているが、「非核三原則の見直し」が念頭にあるのは間違いがない。因みに、高市早苗首相は「持ち込ませず」の見直しが持論である。一連の流れをみるとタイフーンの常設、非核三原則の見直しで「核」も用いた中国包囲網を想定した攻撃拠点化を進めようとしている可能性がある。

九州・南西諸島では、日米など多国間も含め「台湾有事」「対中国包囲」を想定した実戦的な訓練が常態化している。今回の、レゾリュート・ドラゴン 2026、バリエントシールド 2026 は、長射程ミサイルの訓練など「敵基地攻撃能力」を用い、自衛隊がより前面に出た訓練になっている。特定利用空港港湾の拡大と相まって、民間施設の利用も常態化している。

実戦訓練は戦争を想定して行われる。そこでは、住民の命と生活を守ることは想定されていない。深化する軍事演習の実態をマスコミではほとんど報道しない。戦争準備の軍事演習に反対の声をあげていかなければならない。

※1宇宙・サイバー・電磁波などの新領域と陸・海・空の従来領域の能力を有機的に融合し、相乗効果で全体の戦闘力を高める作戦コンセプト

※2アメリカ海兵隊が中心となって開発されている軍事コンセプト。敵の接近阻止・領域拒否に対して、その脅威圏内に前進基地を設置し、これを海軍・海兵隊部隊の拠点として制海の支援などにあたるものとされる



日出生台演習場に展開した、陸上自衛隊の「12式地对艦誘導弾」及び「88式地对艦誘導弾」